

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）
十全総合病院家庭医養成プログラム

2. プログラム責任者			
氏名	古林 太加志	指導医認定番号	2013-216
所属・役職	一般財団法人積善会 十全総合病院・院長、総合内科部長		
所在地・連絡先	住所 〒792-8586 愛媛県新居浜市北新町1番5号 電話 0897-33-1818 FAX 0897-37-5857 E-mail takobaya@shikoku.ne.jp		
連絡担当者氏名*・役職	* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載		
連絡先*	電話	FAX	
	E-mail		

3. 後期研修医定員
1年あたり（4）名 （×研修期間年数＝総定員 12名）
※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱28条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医3名に対して1名以上配置できる人数に留めること

4. プログラムの期間
（3）年間

5. 概要

A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

特徴：

当院は「十全医療・福祉グループ」の中で総本山ともいえるべき総合病院です。「十全医療・福祉グループ」は 350 床の総合病院（十全総合病院）、306 床の精神科病院（十全第二病院）、100 床の理学療法士、作業療法士、言語療法士の養成学校（愛媛十全医療学院）附属病院と十全看護専門学校（学生数 30 名×3 年）、愛媛十全医療学院（学生数 100 名×3 年）、3 つの精神障害者支援施設（入所者 49 名）、2 つの身体障害者療護施設（100 名）3 つの介護老人福祉施設（200 名）、2 つの介護老人保健施設（200 名）3 つの総合福祉館（89 名）からなります。これらの施設が連携を取りながら、家庭医を養成します。また、市の福祉部、保健所、地域診療所、地域の他の病院などとも緊密に連絡が取れていて家庭医養成のプログラムとして充実しています。

B. プログラムの理念、全体的な研修目標

優しい心を持った家庭医、患者の立場に立つことのできる家庭医、どんな疾病にも対応でき、自分の力では十分でないと思うときには、謙虚に躊躇なく専門医や他の medical staff と協調し相談できる出来る心の広い家庭医を養成します。

また、地域において、医療資源を熟知し、それらを患者家族のために活用できる家庭医養成に努めます。

一方、自分自身の医師としての能力を高めるため、臨床研究にも興味を持ち、講演会、雑誌などからさらに深く、新しい知識を吸収することのできる向上心ある家庭医を養成します。

C. 各ローテーション先で学べる内容や特色

小児科研修は小児科専門医のいる住友別子病院で行います。また、十全総合病院にも常勤の小児科医が勤務しており、一般小児科外来、一般小児科入院診療も経験可能です。

救急研修については東京の日本赤十字社医療センター（渋谷区）で 3 か月間十分な研修ができます。十全総合病院では年約 1300 台の救急車を受け入れており、ウォークインの救急患者も多く救急研修は特に十分可能です。

D. 指導体制に関する特長

十全総合病院家庭医養成プログラムの指導医を 2 名から 4 名に増やし、多くの指導医から学べる環境をさらに**追求**していきます。優しく丁寧に指導するとともに、真剣に家庭医養成にあたります。

E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法

市役所、保険所、他のケアマネージャー、介護センターなどと緊密に連絡を取るとともに、十全総合病院内に設置された病診連携室を通じて、他の病院、診療所と素早く効果的な連携をとることが出来ます。また地域住民に対しては定期的な医療講演、糖尿病教室などを通じて、協力を得ることが出来ます。

また治験も精力的に行っており、患者家族との連携も十分行っています。

F. その他

臨床推論に力を入れており、年2回程度、新居浜4病院ヤングドクター勉強会を開催します。この研究会では臨床推論に秀でた医師を招聘して臨床症状を重視し、診断能力を高める機会を作ります。愛媛大学医学部、高知大学医学部、自治医科大学医学部などより、クリニカルクラークシップ研修、総合内科研修、病院見学などを受け入れています。医学生教育にも携わっていただきます。学び、実行しさらに教えるということで家庭医としての実力獲得に有効と信じています。看護学校の講義をする機会もあります。

モデルとなるローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科 十全総合病院内科						小児科 住友別子病院小児科			救急科 日赤医療センター渋谷		
2年目	総合診療専門研修Ⅱ 十全総合病院											
3年目	総合診療専門研修Ⅰ 加藤内科クリニック						外科 十全総合病院外科			内科 十全総合病院内科		

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という項目で記入してください。

プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ			総合診療専門研修Ⅱ			
	（ 6 ）カ月			（ 12 ）カ月			
領域別 研修	内科	小児科	救急科	その他			
	（ 9 ）カ月	（ 3 ）カ月	（ 3 ）カ月	（ 3 ）カ月			

6-1. 総合診療専門研修 I		
研修施設名 1	加藤内科クリニック	診療科名 ()
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	病院病床数 (0) 床 診療科病床数 (0) 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	加藤 正隆	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 2003-33) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無	
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療 : 生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療 : 在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア : 学校医、地域保健活動などに参加		
施設要件		
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層 : 研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) ()		
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保 : 24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (訪問診療を積極的にに行い、24 時間対応で医療を行っている。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア : 一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来患者は主治医が決まっている人が大半であり、継続的な診療を行なっているが、不定期にしか来院できない患者はその時の医師が対応している。訪問診療も、施設での診療も継続的な診療を行なっているため研修期間中の継続的な診療を提供することができる。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア : 一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (小児の急性期医療、成人の急性期・亜急性期・慢性期医療、健診、予防接種、訪問診療、施設訪問、緩和ケアなど、包括的な診療を行なっている。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携 : 必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (新居浜市内の後方病院への患者紹介、また、紹介先からの逆紹介を受けている。新居浜市内の保健・福祉・介護関係者と頻繁に会議を開催し、情報交換・情報共有を行なっている。また新居浜市内のケアマネージャーとは日常的に連絡を取り合っている。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア : 様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (日常的に親子、夫婦などが受診する。家族内の問題や家族のダイナミックスに配慮して診療を行っている。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア : 受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (住民健診を行なっている。新居浜市民、小中学校生を対象に年数回程度禁煙指導などの講演を実施している。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療 : 訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (約数十件に対し在宅訪問診療を月一に行なっている。電話での連絡により緊急往診を行っている。家での看取りをしばしば行うとともに、緩和ケアも十分に行なっている。)		
週当たり研修日数 : (5) 日		
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容	外来研修 (初診・再来)、禁煙指導、講演会など	
日数	1 日/週	

6-1. 総合診療専門研修 I		
研修施設名 2	中島医院	診療科名 (内科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	中島 美知子	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 2014-0079) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無	
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療 : 生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療 : 在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア : 学校医、地域保健活動などに参加		
施設要件		
<input type="checkbox"/> 患者層 : 研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) 多摩北部医療センターと相互の患者紹介、勉強会参加など緊密な連携をしており、週 1 回の小児科研修を契約。		
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保 : 24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (常時携帯電話で患者家族と連絡を取り、症状の諸変化に対応している。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア : 一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (患者に対して緩和ケア中心の診療をしているが、最期まで在宅医療を行い、2013 年の死亡診断書の記載が 100 件前後である。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア : 一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (急性期・慢性期など幅広く研修できる。特に、担癌患者に対する在宅緩和ケアを経験するには最適である。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携 : 必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (多摩北部医療センターを中心に他の一般病院より、在宅医療患者を紹介を受けるとともに、患者の急変時には、患者家族の希望があれば短期入院治療を依頼している。当地の行政、保健所などと連絡を密にとっている。患者家族に希望により他の介護福祉機関への入所の依頼や退所後の在宅医療の継続など介護福祉機関との連絡も密である。そして勉強会を行いお互い顔の見える連携を行っている。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア : 様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (主として単眼患者のターミナルの緩和ケアを経験できるが、家族の心の問題にも気を配った医療を経験できる。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア : 受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (患者及び家族教育のみならず地域の健康住民を巻き込んで講演会などを中島病院主催で積極的に行っている。)		
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療 : 訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (携帯電話で患者家族と 24 時間体制で連絡を取り、患者の急変、緩和ケアに熱心に取り組んでいる。1 年間の死亡診断書作成が 100 件程度である。)		
週当たり研修日数 : (4) 日		
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容	多摩北部医療センターにおける小児科研修	
日数	1 日/週	

※研修施設が 3 箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名 1	十全総合病院	診療科名 (一般内科・総合内科)
施設情報	病院病床数 (350) 床	診療科病床数 (150) 床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	■なし □あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	古林 太加志	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号 : 2013-216) □無	
指導医氏名 2		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有 (認定番号 :) □無	
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有 (認定番号 :) □無	
常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■病棟診療 : 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療 : 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療 : 以下の全てを行っていること		
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (施設と連携し、高齢者患者を積極的に受けている。嚥下性肺炎や尿路系感染患者症例が多く、高齢であり虚弱な患者を多く経験できる。)		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (糖尿病、慢性心不全のある患者が大腿骨頸部骨折で入院した例を経験したり、十全第二病院に入院中の高度の認知症患者が肺炎になった例など紹介を受けたりする。当科が病棟における主治医機能を担当して全身管理をしつつ、他専門家と協調して診療にあたるケースを指導医の監督のもとで豊富に経験できる。)		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (胆管ドレナージや早期胃癌の粘膜剥離など高度な内視鏡的処置が必要な疾患は消化器科と連携して治療にあっている。精神科疾患は十全第二病院の精神科医師が当院で精神科外来を行っており、専門医のコンサルトが随時受けられる。)		
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (複雑な事例について、毎週 2 回病棟で多職種 (医師、看護師、薬剤師、理学療法士、訪問看護スタッフなど) で検討会を開催している。退院前のケア会議も個別事例に応じて開催している。)		
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (麻酔科医を頂点とし緩和ケアナース資格保持者も交えた緩和ケアチームが結成され、医師、看護師、薬剤師その他による指導が随時受けられることができる。)		
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (近隣の訪問看護ステーションや在宅介護支援センターと連携している。当院でも訪問看護、訪問診療を積極的に行っており、重症度や複雑さに合わせて在宅支援を行っている。退院前カンファレンスも随時行っており、在宅診療の医師とも連絡を取り合っている。)		
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (多数の在宅患者が、心不全や肺炎・尿路感染症などで入院し、急性期治療を終えた後再び在宅に戻っている。必要であれば即時入院可能であり、いつでも在宅患者の急変時に入院対応が可能である。)		
外来診療 : 以下の診療全てを行っていること		
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (年間約 1300 例の救急患者が救急車で搬送され対応している。また、Walk in 患者も 24 時間対応で診察している。初診外来についても多くの症例を研修医が経験することができる。)		

<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合内科の初診と再来では臓器別でない診療をしており、毎月平均 1600 名の患者を診療している。初診外来の疾患は臓器別でなく、全人的な診療を経験できる。）</p>	
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（総合内科の外来患者のほとんどが頻度の高い症候や疾患の患者である。）</p>	
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来患者に関する症例検討会を毎週 2 回行い、振り返りと指導を行っている。臨床推論や EBM は随時、大学、大阪医療センターから講師を招いて勉強会を開いている。）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、院内の専門各科医師や栄養士、リハビリ室等と連携し包括的なケアを提供している。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（不明熱や原因不明の腹痛など診断が困難な患者の精査を、外来や病棟で月に 2～3 例程度診療している。このような診断に困惑する症例に対しては他科の医師に随時相談したり、四国がんセンターや、愛媛大学医学部附属病院と連携を密にして対応している。また、インターネットを駆使して文献検索など自由にできる環境を構築している。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 5-6 ）日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	外来研修（初診・再来）、内視鏡勉強会、入院患者検討会
日数	1 日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名 2	愛媛十全医療学院附属病院	診療科名（整形外科・内科・総合診療科）
施設情報	病院病床数（ 100 ）床	診療科病床数（ 50 ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6 ）カ月	
研修期間の分割	■なし □あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	松田 芳郎	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有（認定番号：2014-0258） □無	
指導医氏名 2		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有（認定番号：） □無	
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有（認定番号：） □無	
常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		
ケアの内容		
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療：以下の全てを行っていること		
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（整形外科手術後の症例が多いが、主として高齢者であり、虚弱の患者が多い。）		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（高齢者では多くの患者が複数の健康問題を抱えており、一つの病気にとらわれない医療を経験できる）		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（愛媛大学医学部附属病院の近隣に位置しており、一般内科、整形外科その他専門医と緊密に連絡が取れ専門医との連携が道である。）		
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（総合臨床外来では心理・社会・倫理的複雑事例を経験できる。）		
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（担癌患者及び整形外科的疼痛に対する治療を行っている。）		
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（退院支援、地域連携機能については医師の役割が多いが看護師、MSW、ケアマネージャーなどとチーム医療で取り組んでいる。）		
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（在宅患者の後方支援病院の働きがある。）		

<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来および初診外来を経験できる。）</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合診療外来では臓器別でない一般内科の症例が多い。）</p>	
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（総合診療外来では風症状、腹痛など common disease の症例が多い。）</p>	
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（臨床推論の勉強会を定期的に行っている。また、インターネット環境下でグーグル検索などEBMについて検討する機会が恵まれている。）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（高齢者では複数の健康的諸問題を持っており、総合診療医として対応している。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（指導医は整形外科的知識、総合診療医としての能力に優れ診断困難症例に対応している。また近隣に愛媛大学医学部附属病院があり、連携が密である。）</p>	
<p>週当たり研修日数：(5) 日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	入院患者検討会
日数	1日/週

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-3. 領域別研修：内科		
研修施設名 1	十全総合病院	診療科名（ 内科 ）
病院病床数	（ 150 ）床	
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月	
指導医氏名 1	古林 太加志	
臨床経験年数	（ 39 ）年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会認定医、総合内科専門医、指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、指導医	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		
ケアの内容		
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。		
施設要件		
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。		
■内科病床数が 50 床以上ある。	（ 150 ）床	
■内科常勤医が 5 名以上いる。	（ 6 ）名	
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 （ 3 ）名		
週当たり研修日数：（ 5-6 ）日		
領域別研修（内科）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容	入院患者検討会	
日数	1 日/週	
研修施設名 2		診療科名（ ）
施設情報	病床数（ ）床	
領域別研修（内科）における研修期間	（ ）カ月	
指導医氏名 1		
臨床経験年数	（ ）年	
有する認定医・専門医資格		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		
ケアの内容		
□病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。		
施設要件		
□医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。		
□内科病床数が 50 床以上ある。	（ ）床	
□内科常勤医が 5 名以上いる。	（ ）名	
□後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 （ ）名		
週当たり研修日数：（ ）日		
領域別研修（内科）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容		
日数	日/週	

※研修施設が 3 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-4. 領域別研修：小児科		
研修施設名 1	住友別子病院	診療科名 (小児科)
病院病床数	(400) 床	診療科病床数 (11) 床
領域別研修 (小児科) における研修期間		(3) カ月
指導医氏名 1	竹本 幸司	
臨床経験年数	(17) 年	
有する専門医資格	小児科専門医	
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。		
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。		
■病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。		
施設要件		
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。		
■小児科常勤医がいる。		(3) 名
週当たり研修日数：(5) 日		
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容	入院症例検討会	
日数	1日/週	
研修施設名 2		診療科名 ()
病院病床数	病床数 () 床	診療科病床数 () 床
領域別研修 (小児科) における研修期間		() カ月
指導医氏名 1		
臨床経験年数	() 年	
有する専門医資格		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
□外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。		
□救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。		
□病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。		
施設要件		
□小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。		
□小児科常勤医がいる。		() 名
週当たり研修日数：() 日		
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容		
日数	日/週	

※研修施設が3箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名 1	日本赤十字社医療センター（渋谷区）		
病院病床数	（ 708 ）床	年間救急搬送件数	（ 7041 ）件
指導医氏名 1	林 宗博		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件（下記のいずれか）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
指導医要件			
■救急科専門医あるいは救急に専従する医師			
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす（■のように）			
■ブロック研修			
→領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
□兼任研修			
→どの研修と組み合わせるか（ ）			
週あたり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月			
週当たり研修日数：（ 5 ）日			
領域別研修（救急科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容	救急症例検討会		
日数	1日/週		
研修施設名 2	十全総合病院		
病院病床数	（ 350 ）床	年間救急搬送件数	（ 1268 ）件
指導医氏名 2	湖城 均		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件（下記のいずれか）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設。			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）。			
指導医要件			
■救急科専門医あるいは救急に専従する医師			
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす（■のように）			
□ブロック研修			
→領域別研修（救急科）における研修期間（ ）カ月			
■兼任研修			
→どの研修と組み合わせるか（ 内科研修6か月 ）			
週あたり研修日数（ 1 ）日、研修期間（ 12 ）カ月			
週当たり研修日数：（ 1 ）日			
領域別研修（救急科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容	救急車対応、Walk In 救急患者の診察		
日数	1日/週		

6-6. 領域別研修：その他

研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	週あたり 研修日数 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5-6) 日	(3) カ月	十全総合病院外科	佐々木章公
整形外科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5-6) 日	(3) カ月	十全総合病院 整形外科	松尾真嗣
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(3) カ月	十全第二病院 精神科	武田直也
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(3) カ月	十全総合病院 産婦人科	木花敏雄
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	十全総合病院 形成外科	神田郁乃
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(3) カ月	十全総合病院 泌尿器科	渡邊雄一
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(3) カ月	十全総合病院眼科	増田環
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	十全総合病院 耳鼻咽喉科	宮本佳人
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	十全総合病院 放射線科	北川尚広
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	十全総合病院 臨床検査科	玉井守
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	() 日	() カ月	十全総合病院 理学・作業・言語療法科	松尾真嗣
その他 (小児科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(3) カ月	十全総合病院小児科	占部智子
その他 ()	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日	() カ月		

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）

ポートフォリオ評価を基本とし、各ローテーション先で年2回360度評価を行う。

通常は、1ヶ月毎に形成的評価を行う。また、プログラムの最後に研修医は各分野の経験症例を報告するとともに各手技の研修のありなし。熟練度、経験度などを文書で報告し、それをもとにして、研修医と指導医相互による総合的評価による終了認定を行う。

年1回の後期研修医運営委員会による評価を行う。

3年間研修後の後期研修医運営委員会による卒業判定を行う

8. プログラムの質の向上・維持の方法

年1回の後期研修医運営委員会（必須）及び必要時に院長命で招集される臨時後期研修医運営委員会においてプログラムの質の向上・医所の方法について検討する。